



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JVCケンウッド 横浜C棟 新築工事	階数	地上4F
建設地	横浜市神奈川区守屋町3丁目3丁目9-6.9-38.9-41	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2023年4月3日
敷地面積	4,780 m <sup>2</sup>	作成者	(株)梓設計
建築面積	3,249 m <sup>2</sup>	確認日	2023年4月3日
延床面積	10,305 m <sup>2</sup>	確認者	(株)梓設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
JVCケンウッドの本社・横浜事業所において、事業所の集約し、イノベーションを起こす拠点を目指し、省エネと快適性の両立を図った施設計画としている。	0	
<b>Q1 室内環境</b> 用途ごとに空調ゾーニングを行い、各室での温度設定が可能な空調計画としている。	<b>Q2 サービス性能</b> 天井を貼る範囲を最小限とし、メンテナンス性に配慮した計画としている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 空調用屋外機はすべて屋上階に配置している。
<b>LR1 エネルギー</b> 吹抜け上部には換気窓を設け、中間期には自然換気が行われる計画としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 内装仕上げでリサイクル品を活用した計画としている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 燃焼を必要とする設備機器(給湯、空調)を有しない環境にやさしいオール電化施設となっている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい



### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 **JVCケンウッド 横浜C棟 新築工事**

**建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving** 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **48** %削減

一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	対象外

0 ← 少ない | 多い →

受付日 2023年4月12日

誘導基準 (20%削減)

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

カーテンウォールにLow-Eガラスの採用  
外装に有孔折板を設置し、開口部の日射抑制を計画  
LED照明の採用

**健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community** 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

ブラインドと外装の有孔折板の組合せによる屋光制御  
JIS・JAS規格のF☆☆☆☆を全体の70%以上で採用

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

執務室はOAフロアを採用し、将来のレイアウト変更にも柔軟に対応する機能性を考慮  
中央の吹抜けの階段で上下の行き来しやすい計画とし、知的生産性の向上を考慮

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

積極的な緑化を行い、ヒートアイランド対策を行う

**防災への配慮 (R) Resilience** 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

耐震性能として重要度係数1.25の計画とした。  
構造体の計画供用期間を標準(約65年)とした

**地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape** 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

敷地内の積極的な緑化で景観に配慮

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
_____	_____
エネルギーマネジメントシステム導入	_____
_____	_____



CASBEE横浜2022年版v.1.0  
JVCケンウッド 横浜C棟 新築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>					-		-			<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>					<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	-	-			<b>3.0</b>
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	-			-
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-			-
1		開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			-
2		界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			-
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-			-
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35	-	-			<b>3.0</b>
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-			-
1		室温	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	-			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0	-			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-			-
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-			-
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-			-
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.3</b>	0.25	-	-			<b>3.3</b>
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-			-
1		昼光率	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.60	3.0	-			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ ⑩光環境	-	-	3.0	-			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.40	3.0	-			-
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ ⑩光環境	4.0	1.00	3.0	-			-
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-			-
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-			-
<b>4 空気環境</b>				<b>3.7</b>	0.25	-	-			<b>3.7</b>
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ ⑪空気環境	4.0	1.00	3.0	-			-
4.2 換気				3.0	0.30	-	-			-
1		換気量	快適・働きやすさ ⑪空気環境	3.0	0.33	3.0	-			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ ⑪空気環境	3.0	0.33	3.0	-			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ ⑪空気環境	3.0	0.33	3.0	-			-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-			-
1		CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ ⑪空気環境	3.0	0.50	-	-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ ⑪空気環境	5.0	0.50	-	-			-
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-			<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.4</b>	0.40	-	-			<b>3.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.33	3.0	-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.33	3.0	-			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30	-	-			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.33	3.0	-			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ ⑫機能性	5.0	0.33	-	-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.33	3.0	-			-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.4</b>	0.30	-	-			<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震				3.8	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災 ⑮耐震・免震	4.0	0.80	-	-			-
2		免震・制振性能	防災 ⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2		給排水・衛生設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
3		電気設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
4		機械・配管支持方法	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5		通信・情報設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>4.2</b>	0.30	-	-			<b>4.2</b>
3.1 空間のゆとり				4.2	0.30	-	-			-
1		階高のゆとり		5.0	0.60	3.0	-			-
2		空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-			-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	3.0	-			-
3.3 設備の更新性				3.6	0.40	-	-			-
1		空調配管の更新性		4.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-			-
4		通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.0

JVCケンウッド 横浜C棟 新築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			-
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-			3.1
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑧生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	4.0	0.40	-	-			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑩地域性への配慮	3.0	0.50	-	-			-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-			3.6
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-			4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-			5.0
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-			3.0
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-			5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-			3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
集合住宅の評価				-	-	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-			-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-			3.0
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-			3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-			-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				3.2	0.60	-	-			3.2
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.11	-	-			-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-			-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-			-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				4.0	0.22	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.6	0.20	-	-			2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			-
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.70	-	-			-
1 消火剤				-	-	-	-			-
2 発泡剤(断熱材等)				2.0	0.50	-	-			-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-			-
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-			3.1
1 地球温暖化への配慮				4.4	0.33	-	-			4.4
2 地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-			2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-			-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-			-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			-
1 騒音				3.0	0.50	-	-			-
2 振動				3.0	0.50	-	-			-
3 悪臭				-	-	-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-			-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-			-
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-			-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-			-
3.3 光害の抑制				1.6	0.20	-	-			-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-			-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-			-
<b>上記以外の重点項目</b>				-	-	-	-			-
<b>&lt;事務用途&gt;</b>				-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-			-
<b>&lt;住宅用途&gt;</b>				-	-	-	-			-
<b>健康と安心</b>				-	-	-	-			-
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-			-